

事業内容

農薬事業

種子から収穫まで護るホクコー農薬



農薬事業では、創立以来「種子から収穫まで護るホクコー農薬」をモットーに、安全で優れた農薬を提供しています。

農薬の研究開発

農薬は農作物を病害虫や雑草から守り、農作物を安定して供給できるようにすることで、私たちの豊かで安全な食生活を支えています。また、農薬は農作業を大幅に軽減するなど、農業においてなくてはならない重要な資材です。

農薬の開発には、薬効・薬害試験だけではなく多くの安全性試験が行われます。そのため、新しい農薬の開発には10年以上の年月と数百億円の経費がかかります。新規化合物のうち農薬として登録されるのは、16万個のうち1個といわれています。

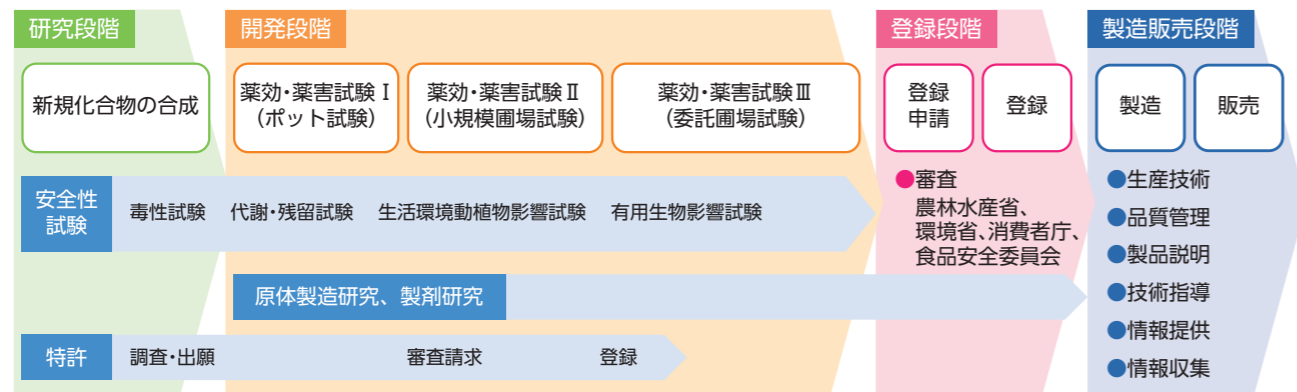
稲の重要病害であるいもち病に高い防除効果を発揮する当社の「カスガマイシン(水稲・園芸用殺菌剤)」は、新たに有機農産物の病害対策剤として使用できるようになりました。さらに、水田雑草のノビエに卓効があり、水稲に高い安全性を示す「イプフェンカルバゾン(水稲用除草剤)」のノビエ発剤としての商品開発や、バイオスティミュラント資材の評価を行うなど、研究開発体制が充実しています。

また、当社の高い製剤技術には定評があり、作業性の改善や省力化に貢献しています。2021年には、新規拡散型製剤「楽粒®」を開発しました。「楽粒®」は、1haの水田でも中に入らずに散布可能な拡散型製剤で、10a当たり250g処理のため省力的です。従来の散布方法に加えて、畦畔からの一辺処理、水口施用、無人航空機などによる散布に対応しています。また、水和剤より粉立ちが少なく、ドローンでも使用できる当社独自の顆粒水和剤(名称「快粒®」)を開発し、第一弾として殺菌剤である「ダブルキック快粒®」を上市しました。当社は、これからも農薬の研究開発を通じて持続可能な農業を支援していきます。



「楽粒®」を処理することによって鏡のように反射する水田の様子

●農薬の研究開発から製造販売の流れ



生産体制

当社は、国内3工場において、充実した設備と技術により、高品質の製品を生産しています。生産にあたっては、周辺環境への配慮はもちろんのこと、作業環境にも十分に配慮し、水質汚濁、大気汚染、騒音などの公害防止対

策に万全を期しています。

また、当社では、殺虫剤、殺菌剤、除草剤などの製剤および包装の受託製造も行っています。

国内事業 多彩な製品のラインアップとサポート体制

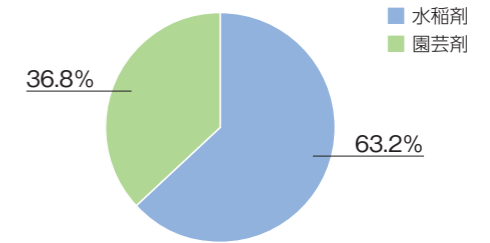
全国のJAを通して、水稲、野菜、果樹などの殺菌、殺虫、除草剤など200以上の製品を販売しています。特に、水稲剤については、幅広い製品構成となっています。販売拠点としては全国に6支店、各都道府県に営業担当者を置き、地域に密着した活動を行っています。

また、農薬を安全かつ効果的に使用できるよう、JAなどの流通機関、農業試験場、普及指導センターなどの指導機関、また実際に使用する生産者に対してきめ細かな情報提供を行っています。

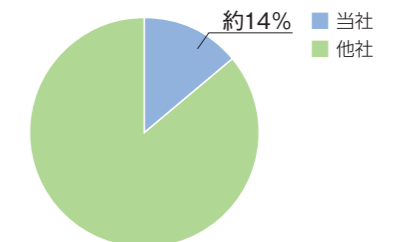


主要製品

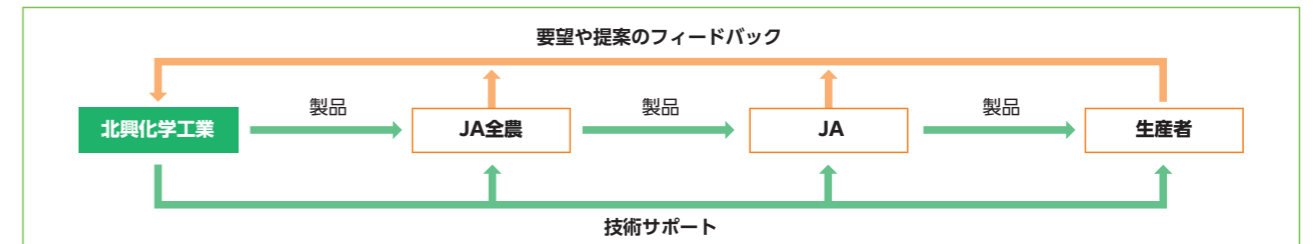
●当社国内農薬売上の分業別構成



●国内水稲剤出荷額の当社シェア(推定)



●サポート体制



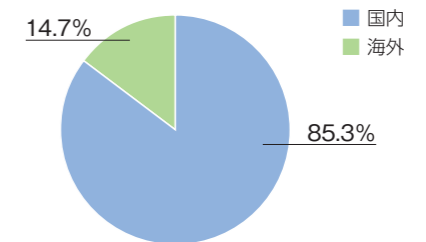
海外事業 主にアジア、北米・中南米に展開

自社開発原体*1「カスガマイシン(水稲・園芸用殺菌剤)」および「イプフェンカルバゾン(水稲用除草剤)」を中心に、主にアジア、北米・中南米などへ販売しています。特に北米・中南米のマーケットにおいては、米国ノースカロライナ州のHOKKO CHEMICAL AMERICA CORPORATION(子会社)とともに、販売拡大に向けて積極的に活動しています。

また、「カスガマイシン」については、専用の製造工場(新潟工場第二工場)を有しており、輸出拡大に向けた安定供給体制を構築しています。ベトナム試験農場では、「イプフェンカルバゾン」の薬効・薬害試験を実施し、熱帯地域に適合する薬剤の開発を行っています。

*1 原体: 農薬の有効成分の工業製品のこと。

●国内、海外の売上高構成



海外で販売されている主な製品

米国向けカスガマイシン液剤

※10ページのグラフは、全て2025年度実績 単体データ